

## 2015年12月実績概要（メモ）

（2016. 1. 21）

2015年のエチレン生産は前年比+3.6%の増加。

### 1. 生産動向

イ) エチレン 614,100トン

前月比                   + 5.4% (+31,300トン)  
前年同月比           ▲ 2.5% (▲16,000トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	+ 3.3%	-
定修要因等	-	-
能力増減	-	▲ 4.3%
稼働率変動	+ 2.1%	+ 1.8%
生産増減率	+ 5.4%	▲ 2.5%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月95.2%→当月97.1%←前年同月95.5%

定修プラント：前月なし→当月なし←前年同月なし

2015年暦年生産量 6,884.7千トン 前年比+3.6%

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、日数の増加や定修規模の差等からHD、PS、SM、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、AN、SBR、BR、ベンゼン、トルエン、キシレンなどの14品目でプラス。MMAモノマー、EO、EGの3品目は稼働率要因等からマイナスとなった。

前年比では、主に稼働率要因からHD、PP、PS、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、BR、トルエン、キシレンなどの10品目でプラス。SM、EG、ベンゼンなどの7品目はマイナスとなった。

### 2. 樹脂の生産・出荷状況（LD、HD、PP、PS）

イ) 生産

前月比では、日数の増加に加え、定修系列数が減少した品目もあり、LD、HD、PP、PSの4樹脂でプラスとなった。

前年比では、稼働率要因からHD、PSで二桁台の伸びとなったのをはじめLD、PPでもプラスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比では、年末の休暇に伴う営業日数の減少から、LD、HD、PP、PSの4樹脂でマイナスとなった。

前年比では、前月と同様に前年の出荷が原料情勢を鑑みた先安観の広まりから低迷した。これに対し、当年は原料情勢による影響はこれと見られておらず、輸入品の減少に伴う国産品の出荷が増加していることも相俟って4樹脂でプラスとなった。

ハ) 輸出

前月比では、原料安、為替相場等の交易条件面では良好な環境が維持されているが、国内出荷との兼ね合いもあり、当月はLD、PP、PSで僅かにマイナスとなった。

前年比ではLD、PSはプラスとなったが、HD、PPはマイナスとなっている。

ニ) 在庫

在庫量は、4樹脂揃って増加した。在庫率(季節調整済)は前月に対して、LDは横這い、HD、PP、PSでは上昇した。在庫水準としてはいずれもやや高めの状態となっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		11月末	12月末
LD	+19,200	2.8	2.8
HD	+13,100	2.8	2.9
PP	+17,200	2.7	2.8
PS	+12,600	1.3	1.7

以上